

令和2年度実施行政評価

# 外部評価結果報告書

令和2年9月

三田市行政評価委員会



# 目 次

第1章 実施概要	.....	1
1 外部評価の趣旨		
2 実施日程		
3 評価の対象		
4 実施方法		
5 評価の観点等		
6 評価者（三田市行政評価委員会）		
第2章 評価の総括意見	.....	4
第3章 対象施策の評価結果		
「2-3 水道供給」	.....	5
「2-8 障がいのある人の安心」	.....	7
「2-11 景観」	.....	9
「3-1 行政運営」	.....	11

# 第1章 実施概要

## 1 外部評価の趣旨

三田市行政評価条例（平成27年三田市条例第28号。以下「条例」という）では、総合計画に基づく戦略的な行政運営を図るとともに、市民の目線に立った効率的で質の高い市政を推進し、市民満足度の向上を図ることを目的として、行政評価を実施することとしている。

また、条例では、市が毎年度策定する行政評価計画に基づいて行政評価を実施し、特に重要な対象については条例第5条第3項に基づく内部評価の検証（＝外部評価）を行うことを定めている。

当委員会は、これらの規定に基づいて外部評価を実施し、その結果を本報告書にまとめた。

## 2 実施日程

令和2年度の三田市行政評価委員会は、以下の日程及び内容により開催した。

会議	開催日	会場	開催内容
第1回委員会	7月21日 (火)	三田市役所	外部評価（1日目） 「2-3 水道供給」 「2-11 景観」
第2回委員会	7月27日 (月)	三田市役所	外部評価（2日目） 「2-8 障がいのある人の安心」 「3-1 行政運営」
第3回委員会	8月21日 (金)	三田市役所	評価のとりまとめ

## 3 評価の対象

行政評価は、総合計画に基づくまちづくりの点検や見直しに役立てるため、第4次三田市総合計画後期基本計画に定める30施策を単位として実施している。

このうち、外部評価の対象は、担当部署の偏り等を勘案しつつ、4施策を選定して外部評価の対象とした。

## 4 実施方法

外部評価は、市が取りまとめた「令和2年度実施 行政評価(内部評価)」の評価調書を基礎資料とし、当該施策を構成する事務事業の一覧として整理した附属資料も必

要に応じて参照しながら担当部署へのヒアリングを行う方法により実施した。

ヒアリングは、施策当たりの配分時間を概ね 35 分間とし、冒頭に所管部署からの説明を受けたのち質疑応答を行った。

#### 【評価に用いた資料】

- ・令和 2 年度実施 行政評価（内部評価）調書
- ・令和 2 年度行政評価調書附属 対象事務事業一覧表
- ・質疑回答（事前連絡分）一覧
- ・令和元年度市民意識調査結果（抄）

#### 【ヒアリング出席者】

- ・対象施策の所管室及び関連室より室長・次長、室参事、課長、副課長、係長等
- ・事務局である市長公室長及び政策課長以下担当職員

### 5 評価の観点等

施策の P D C A（計画－実行－点検－改善）の各段階における検証を、効率的に行うため、評価の観点等を評価用チェックシートに例示し、外部評価の参考とした。

#### 【施策評価チェックシートの観点等】

P 及び D (計画、実行)	総合計画後期計画の実現に向けて適切な方法がとられてきたか ・計画の記載事項に照らして、手段の組み合わせは最適だったか ・欠けている手段や発想はなかったか
C (点検)	施策課題の認識は適切か ・見逃されている、過小評価されている課題はないか ・指標等を正しく分析しているか、違和感のある分析はないか
A (改善)	今後の展開方向は適切か ・本市の特性や状況に応じた対応策としているか ・評価を踏まえた重点化を図ろうとしているか

### 6 評価者

第 4 次三田市総合計画後期基本計画（平成 29 年度～）は、三田版総合戦略（三田市まち・ひと・しごと創生総合戦略。以下「総合戦略」という）を反映して策定されているため、両者の施策や事業は多くの部分において共通する。したがって、行政評価の実施は、結果として総合戦略の効果検証の実施の意味合いも持つ。

国では、地方版総合戦略の検証等について多分野（産業界・関係行政・学術研究機関・金融界・労働界・マスコミなど「産官学金労言等」）の参画を求めていることか

ら、この指針に対応するよう、下記10名の委員による審議を実施している。(任期2年)

令和元年度三田市行政評価委員会 委員名簿  
(任期：令和元年7月1日～令和3年6月30日)

No.	区分	氏名	所属等
1	産業界	松原 正武	三田市商工会 会長
2		中川 隆太	三田市テクノパーク企業協議会 副会長
3	行政機関	前田 正志	兵庫県阪神北県民局 副局長
4	教育機関	◎北原 鉄也	関西学院大学総合政策学部都市政策学科 教授
5		○赤澤 宏樹	兵庫県立大学自然・環境科学研究所環境計画研究部門 教授 兵庫県立人と自然の博物館自然・環境マネジメント研究部長
6		田邊 哲雄	湊川短期大学幼児教育保育学科 教授
7	金融機関	坪根 正悟	池田泉州銀行三田支店 支店長
8	労働団体	浅居 繁樹	連合兵庫 東部地域協議会 議長
9	メディア	井上 隆	神戸新聞北摂総局 総局長
10	市民活動	清水 浩一	三田市市民活動推進プラザ 施設長 (一般社団法人アスパラガス代表)

順不同、敬称略。 なお、「◎」委員長、「○」副委員長

## 第2章 評価の総括意見

三田市においては、平成27年度に新たに外部評価を取り入れて行政評価制度を刷新し、行政評価の手法と実践の改善等を重ねてきた。また、市の第4次総合計画が改定され「後期基本計画」としてスタートしたことを受け、行政評価の施策体系についても後期基本計画に基づいて再設定するとともに、より分かりやすい行政評価の実施や公表を図ってきたところである。

ここでは、今年度、評価の対象とした4施策について総括的な評価や意見を示すとともに、行政評価制度の全体に関係する運用上の課題について制度の趣旨を踏まえ見解を示す。

まず、今回外部評価において対象とした4施策「水道供給」、「障がいのある人の安心」、「景観」、「行政運営」について、総じて総合計画の実現に向けて着実に取り組みがなされ、相応の成果を上げてきていると評価できる。特に、「水道供給」における計画の実現が高く評価された。

なお、4施策に対する個別の評価の詳細については、次の第3章にあるとおりである。

次に、4施策に共通する課題を取り上げておきたい。第1に、取り組みやメニューは一応揃えられている点は評価できるが、総じて実際に事業を実施する際の、更なる質の維持・向上が重要である。障害者福祉の現場においても、景観計画の下で景観形成に関する制限をする場合においても、行政運営自体においてもいうならば、行政運営の質の更なる向上に努める必要があると考える。

第2に、総合計画では「まちづくりの進め方」として、行政運営における市民参加や協働が掲げられている。その観点を踏まえ、市民や市内事業者等の視点や価値観に立ち、そのニーズを丁寧に把握し、また、市民、企業、NPO等の参画、協力、協働、関与が施策の効果や質を高めることを鑑み、積極的に取り組まれることを今後の期待を込めて提言する。

最後に、制度や運用に関連した意見である。まず、「行政評価調書（内部評価）」および付属の「事務事業一覧表」の作成は行政評価において最も重要な作業であるが、年次を重ねて改善されてきている。ただし、行政評価調書における成果指標の選択については再検討が必要であると思われる（総合計画策定の際の課題であるが、工夫が必要である）。

また、今回、昨年度利用できなかった行政評価に関わる市民意識調査（各施策に関する市民の満足度と重要度認識）が実施され、評価に利用することができた。評価制度の目的として「市民満足度の向上」が掲げられていることもあり、その種の市民意識・認識を評価に利用できることが望まれるため、当委員会として調査の実施を要請していたが、それに対応していただけたことを感謝する。

### 第3章 対象施策の評価結果

取組番号	2-3	取組名	水道供給
------	-----	-----	------

#### 1 内部評価の概要

基本情報				予算の重点項目等に対する市の取り組み結果(令和元年度)	
				主な取り組み3項目 (予算額:千円)	⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価
取組目標	安心・安全な水道供給ができるまちをつくりましょう			<b>①老朽施設等の計画的な更新(485,900)</b> 【老朽施設等の計画的な更新】  <b>②安全な水の供給(25,288)</b> 【安全な水の供給】  <b>③経営基盤の強化(463)</b> 【経営基盤の強化】	<b>①計画的な水道施設の更新を実施し、水道事故を未然に防いだ</b> ・老朽管更新計画(H25～R4)進捗率 71.7% ・フランジ継手部強靱化計画(H29～R8)進捗率 32.5% ・施設耐震化工事(H29～R元)施設数進捗率 100% (達成度)計画どおり順調に実施することができた。 <b>②水安全計画の履行や推進検討会の実施、また、計画的な計装機器等の保守点検により、安全、安心な水道水を供給した</b> ・目標 水質事故0件→実績0件 (達成度)継続して無事故を続ける。 <b>③H30に策定した水道事業経営戦略に基づき、経営審議会を開催し料金体系の見直しについて検討を進めた。</b> (達成度)基本水量の見直しや料金体系の今後の財政見直しについて、議論が深まった。
対象経費 人件費除く :百万円	H30 予算	R元 予算	R2 予算		
施策関連 部課等	[上下水道部] 上下水道部				

成果指標等の推移									成果を踏まえた重点課題等 (令和2年度以降) 現在もっとも重要な1項目 +その他の課題を記載	令和2年度 予算対応済 内容(千円)
(進捗区分:◎達成、○順調に進捗、△停滞傾向、×見直し必要)										
指標名	基準 H27	H28	H29	H30	R元	目標 R3	進捗			
1 水質基準不適合率【%】	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	◎	<b>【重点課題】</b>  <b>料金体系の見直し</b> <b>【経営基盤の強化】</b>  <b>【詳細説明】</b> 将来にわたり持続可能な水道事業を維持していくために、10年間の在り方を示した経営戦略を策定(H29～30)し、課題となった少水量使用者を考慮した基本水量等の見直しについて、R元に引続き経営審議会で検討を行う。  <b>【その他の課題】</b>  災害への備え(水道施設の耐震化率の向上)	経営審議会 経費(133)	
2 水道料金の回収率【%】	95.8	95.8 (H27)	99.0 (H28)	100.6 (H29)	100.4 (H30)	100	◎			
3 上水道の有収率【%】	95.8	96.3	94.3	93.5	92.9	97.0	△			
4										
5										

## 2 評価意見のまとめ

各委員の評価意見を基に取りまとめた結果、以下を当委員会の外部評価意見とする。

- ① 主な取り組みが堅実に実を結んでおり、総合計画（後期計画）の成果指標についても概ね目標を達成できており評価できる。
- ② 老朽化施設、老朽管の更新については着実かつ計画的に進められており、高く評価できる。水質基準に適合した水道供給が継続されており、これからも安全・安心な水道が安定的に供給されることを期待している。
- ③ 水道事業に係る経営状況についても、中期的にも黒字を確保できる見込みであり健全な経営が続いていると評価できる。ただし、今後の給水人口・水道需要の減少も予想され、更新計画が順調に実施していけるよう将来にわたり安定的な経営を維持するための料金体系の見直しは必要と考える。

## 3 その他の参考意見

上記のほか、今後の施策推進において参考とすべき意見があったので、次のとおり掲載する。

- (i) 新型コロナ禍に関連して、収入減の回復のために、経営の安定化を目指した費用削減等を検討し、堅実な経営を進めていただきたい。
- (ii) 近年頻発、激甚化する災害への対応も極めて重要な課題と考える。
- (iii) 水道は供給するだけでなく排水処理も一体という見方をすれば、下水道事業を含めた経営基盤の安定を図って欲しい。

取組 番号	2-8	取組名	障がいのある人の安心
----------	-----	-----	------------

1 内部評価の概要

基本情報				予算の重点項目等に対する市の取り組み結果(令和元年度)	
				主な取り組み3項目 (予算額:千円)	⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価
取組目標	障がいのある人の権利が保障され、安心して暮らせる共生社会の構築をめざしましょう			<b>①障害への理解と虐待の防止(500)</b> 【その他】  <b>②地域生活支援拠点等の整備(113)</b> 【相談支援体制の充実】 【生活支援の充実】  <b>③手話施設推進補助事業(80)</b> 【その他】	<b>①障害への理解と、障害者虐待防止のための緊急時支援体制の強化を行った</b> ・職員研修2回開催 弁護士・社福士専門相談1回 <b>(達成度)</b> 職員の障害への理解が深まった。専門職に対処方法を相談し、迅速かつ適切な対応を行うことができた。 <b>②「相談」と「緊急時の受け入れ・対応」の整備を目指し、ネットワーク・体制づくりを行った。</b> ・地域自立支援協議会代表者会2回開催、ワーキンググループでの課題検討討計6回 <b>(達成度)</b> 24h相談体制については、R2から基幹相談支援センターで行う。緊急時の受け入れはR2整備に向けての課題整理を行った。 <b>③「三田市みんなの手話言語条例」に基づく施策を推進するため、意思疎通支援者の派遣に係る費用の助成を行った</b> ・補助金交付(1件、72千円) <b>(達成度)</b> 手話教室のフォローアップにおける意思疎通支援を行うことで、手話に関する理解を深め、相互理解を進める一助となった。
対象経費 人件費除く :百万円	H30 予算	R元 予算	R2 予算		
施策関連 部課等	2,197	2,328	2,462		
[福祉共生部共生社会推進室]  障害福祉課					

成果指標等の推移								成果を踏まえた重点課題等 (令和2年度以降) 現在もっとも重要な1項目 +その他の課題を記載	令和2年度 予算対応済 内容(千円)
(進捗区分: ◎達成、○順調に進捗、△停滞傾向、×見直し必要)									
指標名	基準 H27	H28	H29	H30	R元	目標 R3	進捗		
1 相談支援事業所の数【箇所】	7	8	8	8	8	8	◎	<b>【重点課題】</b>  <b>地域生活支援拠点等の整備</b> 【生活支援の充実】  <b>【詳細説明】</b> R2 末までに、障害児者の生活を地域で支えるネットワーク体制を構築する。障害者の地域生活を支援する重要な役割を担う「きいてネット」の機能強化を図るため、就業・生活支援と精神障害者相談・支援事業をR3から行う事業者を公募する。  <b>【その他の課題】</b> 地域生活への円滑な移行のための生活の場(グループホーム等)の確保	相談支援事業費 (45,627のうち253)
2 日中活動系サービス提供数【事業】	40	40	40	43	45	41	◎		
3 グループホームの箇所数【箇所】	15	15	15	16	16	18	○		
4									
5									

## 2 評価意見のまとめ

各委員の評価意見を基に取りまとめた結果、以下を当委員会の外部評価意見とする。

- ① 国の施策を踏まえつつ、障害者福祉行政の諸施策が進められ、成果指標は順調に進捗しており、更に、「相談」と「緊急時の受入れ・対応」の整備を目指しネットワークづくりに注力している点が評価できる。
- ② 障がいのある人がより安心して生活を送るため、障害者の地域生活を支援する「きいてネット」の更なる認知度の向上、機能強化及び相談支援体制の充実を目指していただきたい。
- ③ 障がいのある人だけでなく、障がいのある人を支える人も安心して過ごせるように障害者施策の根幹に「権利擁護」の視点を明確に取り入れることを望む。

## 3 その他の参考意見

上記のほか、今後の施策推進において参考とすべき意見があったので、次のとおり掲載する。

- (i) 成果指標として、相談支援事業所数やグループホームの箇所数などだけでなく、それぞれの利用者数も指標の項目とするなど、次期総合計画策定に向けては質の向上につながる指標も取り入れていただきたい。
- (ii) 障がいがある人がより安心して暮らしていけるよう関係者を含めた対応や支援に関する継続的な研修の充実を図っていただきたい。
- (iii) 新型コロナウイルス感染症拡大の収束が見通せない中で、地域生活への円滑な移行のための生活の場であるグループホーム等の確保が課題である。また、働き手の確保等についても困難が予想されるため、AIなどを活用した新たな支援のあり方を検討していただきたい。

取組 番号	2-11	取組名	景観
----------	------	-----	----

1 内部評価の概要

基本情報				予算の重点項目等に対する市の取り組み結果(令和元年度)	
				主な取り組み3項目 (予算額:千円)	⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価
取組目標	良好な景観を形成し、次世代へ継承しましょう			<b>①景観重要建造物の指定(2,525)</b> <b>【良好な景観形成の促進・支援】</b>  <b>②古民家等歴史的建築物の保存活用の推進(22,972)</b> <b>【良好な景観形成の促進・支援】</b>  <b>③屋外広告物の適正化(2,158)</b> <b>【屋外広告物の適正化に関する周知・啓発】</b>	<b>①良好な景観形成上重要な建造物を保全するため、景観重要建造物の指定推進に取り組んだ</b> ・指定候補物件調査 計画1件 →実績1件 ・重要建造物の指定 計画1件 →実績1件 <b>(達成度)</b> 計画に即して取り組めた。  <b>②過去調査で抽出した再生候補物件等について、事業化支援、改修費助成等の支援に取り組んだ</b> ・事業化支援 計画1件 →実績0件 ・改修費助成 計画2件 →実績1件 <b>(達成度)</b> 市街化調整区域に位置する物件について、周辺住民の合意形成や活用希望者の確保が困難であることから、事業化支援については一旦見直すこととした。  <b>③景観パトロールの強化に取り組んだ</b> ・パトロール実施数 H30 実績48回 →R元実績48回 <b>(達成度)</b> 簡易違反物件の早期除却と指導の徹底が図れた。
対象経費 人件費除く :百万円	H30 予算	R元 予算	R2 予算		
施策関連 部課等	[まちの再生部都市政策室]  都市計画課、都市再生課、里山のまちづくり課				

成果指標等の推移								成果を踏まえた重点課題等 (令和2年度以降) 現在もっとも重要な1項目 +その他の課題を記載	令和2年度 予算対応済 内容(千円)
(進捗区分: ◎達成、○順調に進捗、△停滞傾向、×見直し必要)									
指標名	基準 H27	H28	H29	H30	R元	目標 R3	進捗	<b>【重点課題】</b> <b>歴史的建築物の保存活用の促進</b> <b>【良好な景観形成の促進・支援】</b> <b>【詳細説明】</b> ・町家や古民家等歴史的建築物は、保存活用により地域の価値や魅力を高めることができる貴重な景観資源であるが、除却が進んでいる。 ・過年度補助事業で再生した町家等の存在が、近隣住民に対して町家等の保存活用の意識を高めていることから、引き続き改修費補助制度等により保存活用を促進する。 ・市街化調整区域では、土地利用規制の緩和に向け、活用希望があった場合は個別対応する。  <b>【その他の課題】</b> 屋外広告物の違反指導対策 <th rowspan="6">景観形成 推進事業 費(12,840)</th>	景観形成 推進事業 費(12,840)
1 景観計画策定区域面積【ha】	1,780	1,780	21,032	21,032	21,032	21,032	◎		
2 町家等修景助成件数【件】	-	-	1	0	1	5	△		
3									
4									
5									

## 2 評価意見のまとめ

各委員の評価意見を基に取りまとめた結果、以下を当委員会の外部評価意見とする。

- ① 市民意識調査によると景観は市民にとって満足度の高い領域であると考えられ、全市域を対象に景観計画を策定し、計画に基づき施策を進めていることは高く評価できる。
- ② 古民家や町屋等の再生・利活用に資するため、不動産事業としてのアプローチを加味していること、事業の促進を図る努力を継続していること、及び、景観形成を通じまちのにぎわいづくりにも取り組んでいることは評価できる。今後は市の魅力及び価値の向上に資するためにも歴史的建造物の利活用実績を重ね市民意識の高揚につなげる方策に期待する。
- ③ 良好な景観を形成するため屋外広告物の適正化に関する周知・啓発、景観パトロールの実施により簡易違反物件の早期除去と指導徹底がはかられており評価できる。

## 3 その他の参考意見

上記のほか、今後の施策推進において参考とすべき意見があったので、次のとおり掲載する。

- (i) エリアプロデュースとマネジメント事業について、三田市民や地域住民にとって主体的に関われる事業となることを願っている。
- (ii) 今後は、更なる良好な景観形成に資するため、準屋外広告物や特定屋内広告物などの課題に中長期的に取り組んでいただきたい。
- (iii) 新型コロナウイルス感染症拡大の収束が見通せない中、古民家等歴史的建築物の保存活用にあっては、テナント募集のあり方も含めた工夫が望まれる。

取組 番号	3-1	取組名	行政運営
----------	-----	-----	------

### 1 内部評価の概要

基本情報				予算の重点項目等に対する市の取り組み結果(令和元年度)	
				主な取り組み 3 項目 (予算額:千円)	⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価
取組目標	職員と組織の能力を高め、市民にとってわかりやすい行政運営に取り組みます			<b>①公共施設マネジメントの推進(130)</b> <b>【公共施設マネジメントの推進と資産の適正な利活用】</b>  <b>②ICT(情報通信技術)を活用した行政運営の推進(4,091)</b> <b>【その他】</b>  <b>③働き方改革の推進【その他】</b>	<b>①「三田市公共施設マネジメント推進に向けた基本方針」に基づき、公共施設マネジメントを推進した</b> ・地域団体等が主体となり、廃止となる公共施設等の利活用を提案できる制度「地域イニシアチブ」の運用を開始した。 ・公共施設の利活用等について取組みを進めた。 <b>(達成度)</b> 公共施設利活用(地場産レストラン)として、2施設において事業者募集した。  <b>②ICTの活用により事務の効率化に積極的に取り組んだ</b> ・PC入力作業の自動化のため、税務課等4課6業務について年間削減目標を300時間としてRPA化を進めた。 <b>(達成度)</b> 上記6業務を含めた計22業務をRPA化し、年間作業時間を842時間削減。RPAを操作する人材15人を育成  <b>③時差出勤や振替休暇、在宅勤務の試行、リレー方式庁内放送等新しい取り組みを展開した</b> ・時間外勤務削減 H30実績 72,471時間 →R元実績 68,368時間 <b>(達成度)</b> 新たにノー残業ウィークや定時退庁日の実績を確認し、前年の時間外勤務を4,100時間下回ることができた。
対象経費 人件費除く :百万円	H30 予算	R元 予算	R2 予算		
	4,663	4,810	4,805		
施策関連 部課等	[経営管理部行政管理室]  総務課、ICT推進課、人事課、財政課、公共施設マネジメント推進課、収納対策課ほか 市長公室政策課 地域創生部まちのブランド観光課				

成果指標等の推移								成果を踏まえた重点課題等 (令和2年度以降)	令和2年度 予算対応済 内容(千円)	
(進捗区分: ◎達成、○順調に進捗、△停滞傾向、×見直し必要)								現在もっとも重要な1項目 +その他の課題を記載		
指標名	基準 H27	H28	H29	H30	R元	目標 R3	進捗	<b>【重点課題】</b>  <b>第5次総合計画策定に向けた取り組み</b> <b>【行政マネジメントシステム】</b>  <b>【詳細説明】</b> ・第4次総合計画がR4.3に終期をむかえることから、三田市委員会等に基づき、第5次総合計画の策定を進める。 ・まち全体で「共に創る」策定プロセスを大切に策定手法により、10年先のありたいまちの像を明確にしなが、その実現にむけた施策等を示していく。  <b>【その他の課題】</b> ・在宅勤務の推進	第5次総合計画推進事業費 (14,349)	
1	人事評価「積極性」の項目について、「期待以上」と評価される職員の割合【%】	43.4	41.0	38.4	41.9	33.0	50.0			△
2	市役所の信頼度【%】	82.9 (H28)	82.9	82.6	81.0	80.8	85.0			△
3	市民一人当たり地方債残高(立替施行含む)【千円】	376	376 (H27 決算)	362 (H28 決算)	346 (H29 決算)	333 (H30 決算)	319			○
4	市の審議会・委員会等における市民委員の割合【%】	10.2 (H28)	10.2	11.0	10.1	10.2	15.0			△

## 2 評価意見のまとめ

各委員の評価意見を基に取りまとめた結果、以下を当委員会の外部評価意見とする。

- ① 財政運営、ICT活用、働き方改革など着実に実施され、一定の成果を得ていると評価するが、市民の市政参加や官民協働、市民の行政理解、成果指標の一部に課題がある。ICTの活用等による行政運営の効率化を図るための方策を推進する一方、市民に直接接する業務にも重点を置いていただきたい。
- ② 公共施設マネジメント推進の方向性は適切であると思われるが、市民意識との乖離があると感じられることから、市民への適切な説明を行い、市民とともに推進していくことが求められる。
- ③ 三田市の実情に応じた総合計画に基づくまちづくりが進められていると評価する。しかし、次期総合計画の策定に向けては、地域特性に応じた地域計画の策定支援に取り組みつつ、その総合計画上での位置づけを検討するとともに、成果指標として停滞傾向にあるものについては改善の余地があると考えられるので、しっかりと対応していただきたい。

## 3 その他の参考意見

上記のほか、今後の施策推進において参考とすべき意見があったので、次のとおり掲載する。

- (i) 成果指標である「人事評価『積極性』の項目について、『期待以上』と評価される職員の割合」を高めるには、仕事をマネジメントする幹部職員の能力向上によるところが大きいと考えられることから、幹部職員への更なるスキルアップにも投資していくことを進めてほしい。
- (ii) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、新たに見えてきた課題について検証し、今後の行政運営に活かしていただきたい。